

* 「その翌日、ヨハネは自分のほうにイエスが来られるのを見て言った。『見よ、世の罪を取り除く神の小羊。私が、私のあとから来る人がある。その方は私にまさる方である。私より先におられたからだ、と言ったのは、この方のことです。』」

B. ヨハネは、イエス・キリストを指し示し、「世の罪を取り除く神の子羊」である、と紹介する。イスラエル人が「神の子羊」からイメージすることは3つほどある。 1. 「過越しの子羊」出エジプトの時、主が「すべての初子を打つので、子羊を屠

り、その血を2本の門柱と鴨居に塗り付けておけ。その家をわたしは「通り過ぎて災いを起こさない」と言われた。イスラエルの救いの原点である「子羊」。(出エジプト12 : 5以下参照)

2. 毎日神殿で行われていた、罪のためのいけにえとしての「子羊」。自分が犯した罪の赦しのために、身代わりにささげた「犠牲の子羊」。(レビ記5 : 5 ~ 6参照)

3. 「苦難のしもべとしての子羊」。イザヤ52 ~ 53章に記されているメシヤを示す。イスラエル人の当時のメシヤ観は王としてのメシヤであり、ダビデが再来してイスラエルをローマから救い、治めることであった。しかし、B. ヨハネは「世の罪を取り除く」神の子羊と言った。「罪を取り除く」とは「罪を代わりに担う、背負う」という意味であり、B. ヨハネの頭の中には、この方が民のためにいけにえとしてささげられるという姿があった。十字架はまだ先のことだが、イザヤが預言した「苦難のしもべ」はまさにこの方であると確信したと思われる。

* 「また、やぎと子牛との血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度、まことの聖所に入り、永遠の贖いを成し遂げられたのです。」

(へブル9 : 12) 十字架により、罪の赦しのために何回も動物をささげる必要がなくなった。全く傷のない、罪のないイエス・キリストがいけにえとなって十字架にかかってくださったゆえに、それを信じる私たちは罪から解放されるのである。「見よ、神の子羊」。これは私たちにむかって言われている。罪が取り除かれ、神に近づくためには、この「神の子羊」を信じるだけでよい。「神の子羊イエス」は死んだが、よみがえって神の右におられ、私を永遠のいのちに導かれるのである。屠られた子羊は新天新地においても中心に座っておられる。この方をしっかりと見て、あがめ、従って歩んでいきたい。